

平成29年2月秋田市議会定例会代表質問者順序

秋 水 会 岩 谷 政 良

そ う せ い 藤 田 信

公 明 党 松 田 豊 臣

フロンティア秋田 伊 藤 巧 一

市 民 ク ラ ブ 渡 辺 良 雄

社会・市民連合 工 藤 新 一



1 市長の政治姿勢について

- (1) 2期8年を振り返って、どのような実績を残すことができたのか
- (2) 3期目に向けて、今後の市政運営のビジョンをどのような使命感のもとで思い描き、新たな公約には、どのような重点施策を盛り込んでいくのか
  - (3) 将来を見据えたまちづくりについて
    - ア 人口減少下における市街地の拡大をどう考えているのか
    - イ 市街化調整区域における商業施設等の開発が、本市経済やまちづくりに与える影響をどう考えているのか、また、そのような開発の提案があった場合、市としてどのような対応をするのか
    - ウ (仮称)芸術文化交流施設に歴史機能を加える考えはないか
    - エ 県から旧県立美術館の土地と建物の譲渡を受けるに当たり、必要とされる県と市の手続や県議会への説明等の状況はどうなっているのか
  - (4) 平成29年度当初予算編成等について
    - ア 今後の財政運営において、中・長期的な展望をどのように考えているのか
    - イ 平成29年度の当初予算は、どのような考えに基づき編成したのか、また、市長選挙を控え骨格予算となっているが特徴は何か

2 人口減少対策について

- (1) 子育て支援策について
  - ア 子育て支援策に積極的に取り組んでいるが、見えてきた課題は何か
  - イ 今後の子育て支援には、どのような視点が重要と考えているのか、また、具体的にどのような事業展開を思い描いているのか
- (2) 地域経済の活性化及び雇用の創出に対するこれまでの取り組み状況と今後の方向性について

- ア 企業誘致の促進と既存企業の事業規模拡大への取り組みについて
- イ 中小企業に対する支援制度の拡充について
- ウ 若者の定住を促進する雇用施策について
- エ 農業法人と小規模農家への支援について
- オ 農商工連携の取り組みについて

3 人口減少社会を見据えた公共施設等のあり方について

(1) 秋田市公共施設等総合管理計画の活用等について

- ア 今後、公共施設等の総量の最適化を進めていく上で、同計画をどのように活用していくのか
- イ 今後の公共施設等の複合化など、総量の最適化にどのように取り組んでいくのか

(2) 生活排水処理施設の統廃合について

- ア 八橋下水道終末処理場と秋田県の秋田臨海処理センターとの汚水処理機能の統合について、期待される事業効果と現在の進捗状況はどうか
- イ 汚水処理機能の統合後、廃止となる施設や敷地について、どのような活用を考えているのか
- ウ 八橋下水道終末処理場のほか、下水道処理施設や農業集落排水処理施設の統廃合について、どのように考えているのか

4 立地適正化計画の策定について

- (1) 今年度実施した都市構造の調査・分析では、どのような結果が出たのか
- (2) 調査・分析結果で明らかになった本市の都市構造から見たまちづくりの課題は何か
- (3) 同計画の策定に向けて、どのような検討を進めていくのか

5 秋田公立美術大学について

- (1) 芸術系の大学院設置の意義は何か

(2) 大学院の開設を機に、同大学に本市のまちづくりへのかかわりを、これまで以上に持たせていくべきと考えるがどうか

6 八橋運動公園の施設整備等について

(1) 旧气象台跡地を同公園の駐車場の一部として活用してはどうか、また、使用機会が少ない隣接する相撲場もあわせて活用してはどうか

(2) 八橋球場のバックネット裏及び内野スタンド等を改修すべきと思うがどうか

(3) 知事同様、市長もスタジアム整備を公約に盛り込む意向のようであるが、陸上競技場の改修も整備案の一つに挙げるのか

(4) 市有地に立地している秋田県立体育館の建てかえについて、県との協議はなされているのか

7 羽州街道の観光資源としての活用について

(1) 羽州街道を周辺観光施設とともに観光マップに掲載し、あわせて観光案内板等を設置するなど、観光資源として積極的に活用すべきと考えるがどうか

(2) 観光客に羽州街道の魅力を発信するために、観光ルートの設定やまちあるきなどを企画してはどうか

8 消防団の活性化について

(1) 第23回全国女性消防操法大会に、本市はどのようにかかわっていくのか

(2) 消防操法大会を開催することによって、消防団の活動にどのような効果をもたらされると考えているのか、また、本市消防にとってどのようなメリットが期待されるのか

(3) 秋田市消防操法大会を御所野地区にある消防訓練場ではなく、中央地域を会場に開催すべきと思うがどうか



1 市長の政治姿勢について

- (1) 2期8年の穂積市政をどう総括しているのか、また、総括を踏まえ、市民が最も望むことは何であると考えているのか
- (2) 3期目に挑戦するに当たり、市長説明において、「初心に立ち返り、新たな気概を持って」との発言があったが、具体的に、市長就任時の初心及び新たな気概とは何か、また、それらをどのように市政運営に生かしていくのか

2 心に寄り添い、ともに考える市民協働について

- (1) 新・県都『あきた』成長プランの基本理念「ともにづくり ともに生きる」とは具体的にどのような考え方なのか、また、施策の推進にどのように反映させているのか
- (2) これまでの市民協働・都市内地域分権の取り組みをどう評価しているのか、また、新たに策定する「(仮称)市民協働指針」は、どのような考え方で策定するのか
- (3) 市民協働によるまちづくりを確実に進めるため、自治基本条例を設定すべきではないか
- (4) 市政により一層市民の声を反映させるため、しあわせづくり秋田市民公聴条例の運用に当たっては、計画等の策定段階から意見交換会等の開催を義務づけてはどうか
- (5) 町内会などからの提案・要望に対して、地域課題の解決に向け、地域に寄り添い、ともに考える姿勢が重要と考えるが、どのような考え方で検討し、回答しているのか、また、回答に至る流れに改善の余地はないか

3 県・市連携文化施設の課題について

- (1) 施設整備の進め方について
  - ア 整備計画等の策定に当たり、市民参加の機会が少ないことから、

市民協働を進めるという市の方針に合っていないと考えるがどうか

(2) 文化芸術施策について

ア 同施設を活用した文化芸術の推進という視点が不十分ではないか、また、本市の歴史、風土等の特性に応じた文化芸術施策をどう描き、同施設をどのように位置づけ、活用していくのか

イ 文化芸術施策の推進における県との役割分担はどうなるのか

(3) 文化会館の継続使用について

ア 国は、現行の公共施設等最適化事業費に長寿命化事業を追加し、法定耐用年数を超えて公共施設を使うことを推進する姿勢であるが、この長寿命化事業を活用して同会館を継続使用する場合の経費はどうなるのか、また、建てかえの場合との比較はどうなるのか

イ 秋田市公共施設等総合管理計画（案）において、公共建築物の長寿命化を推進する方針が示されていることから、同会館も大規模改修した上で継続使用すべきではないか

(4) 公費の考え方について

ア 市民は、国・県・市に納税しており、国庫補助金も地方交付税交付金も税金が原資であることから、市の実質負担額のみで考えるのではなく、多額の公金の投入に見合った計画なのかどうか、総事業費全体で考えるべきではないか

イ 公共工事の労務単価が平成29年3月から全国平均で3.4%引き上げられることが発表され、6年連続での引き上げ、平成24年度比で39.3%の上昇となり、請負工事費が高額となっていることから、緊急性の低い文化会館の建てかえは取りやめるべきではないか

(5) 一体活用する隣接地について

ア 抵当権が設定された用地を買収する場合は、抵当権を抹消した上で所有権を移転するのが原則ではないか

イ 現在の債務の状況はどうなっているのか、また、抵当権を抹消して、所有権を移転することは可能なのか

ウ 抵当権を抹消しない場合、社会資本整備総合交付金や公共施設等適正管理推進事業債の対象となるのか、また、用地を確実に使用し



続けることはできるのか

エ 抵当権が実行された場合、補助金適正化法上、問題にならないのか

#### 4 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想を活用した本市の課題解決について

##### (1) 本市の課題解決に向けた協議の場について

ア 大規模商業施設の計画を白紙に戻し、未病産業の創出拠点への変更を検討している神奈川県小田原市の事例のように、本市の課題を解決する拠点としての活用を検討するため、県、市、商工会議所、イオンタウン株式会社の四者が協議すべきと考えるがどうか、また、四者が市民の声を聞く場も設けるべきではないか

##### (2) エイジフレンドリー産業の創出について

ア 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画（原案）の重点施策に掲げるシニアビジネスの創出を図るため、産学官が連携してエイジフレンドリーな商品、サービス、インフラを開発する拠点として活用できないか

##### (3) フードバレーの形成について

ア 6次産業化や農商工連携により開発した農産加工品や農産物の販路として確保することにより、後継者の確保や経営規模の拡大、園芸作物の生産拡大、周年型農業の普及促進、食品加工業の振興を図るとともに、輸出も視野に入れたフードバレーの形成を推進すべきではないか

##### (4) 他県との競争環境について

ア 同構想が、本県ではなく隣県で実現した場合、本市にどのような影響があると考えているのか

#### 5 秋田の特徴を生かした新産業の創出について

(1) 安定した原材料調達や秋田港からの輸出利便性を生かし、ポスト炭素繊維といわれるセルロースナノファイバーの生産工場や研究所の誘

致など、同素材の産業クラスターの形成を図ってはどうか

(2) 県立大学が発足させた全国低カリウム野菜研究会と連携し、新たな付加価値を生む農業として、低カリウム野菜の一大生産地の形成を目指してはどうか

(3) 特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律の成立を受け、これまでのカジノとは一線を画した、日本の文化を生かし、秋田らしさを感じられる新しいカジノの形態を模索するため、NPO法人イーストベガス推進協議会との協議の場を設けてはどうか

## 6 ワーク・ライフ・バランスにより地域に活力を

(1) 働き方・生き方の見直しについて

ア 「子育て応援リーダー宣言～秋田市版イクボス宣言～」を発展させ、本来のイクボスのねらいである、男性も女性も、若者も高齢者も、育児や介護をする人も、障がいや病気を抱える人も、だれもが働きやすい職場環境づくりを進めるべきと考えるが、今後、どのように取り組みを展開し、宣言企業をふやしていくのか

イ 厚生労働省が推進するイクメン企業アワードやイクボスアワードへの応募を促進する取り組みが必要と考えるがどうか

ウ 本市のワーク・ライフ・バランスの取り組みを一層推進し、意識をさらに高めるため、NPO法人ファザーリング・ジャパンが毎年開催しているファザーリング全国フォーラムを県と共同して誘致してはどうか

エ ワーク・ライフ・バランスを発展させた、ワーク・ライフ・シナジーという考え方を市民に浸透させていくべきと考えるがどうか

(2) 市役所から始める働き方改革について

ア 調達におけるワーク・ライフ・バランス等推進企業の優遇措置について

(ア) 第二次秋田市子ども・子育て未来プランにおいて、入札参加者資格審査における優遇措置など、仕事と生活の調和の実現に向けた取り組みを実施する企業の社会的評価を促進するとしているが、

その取り組み状況はどうか

(イ) 国と同様に、少額随意契約を行う場合において、ワーク・ライフ・バランス等推進企業1者以上を見積先とする取り組みを進めるべきではないか

イ 民間企業で導入が進み、厚生労働省も企業への支援策を検討している勤務間インターバル制度を、市が率先して導入すべきではないか

ウ プレミアムフライデーの取り組みをどうとらえているのか、また、市としてどう取り組むべきと考えているのか

エ 現行の秋田市特定事業主行動計画に定める年次有給休暇の取得促進に係る具体的取り組み内容の実施状況と効果はどうか、また、プラスワン休暇の推奨や、地域の行事・PTA活動等の際に積極的に休暇を取得するよう労働組合と連携して職員に働きかけるべきではないか

## 7 子供を産み育てやすい環境づくりについて

### (1) 子供を産みたいと思える取り組みについて

ア 家庭を持つことへの若い世代の不安を払拭するため、子供がいる暮らしを体験できる家族留学に取り組むことはできないか

### (2) 子育て世帯への経済的支援について

ア 子供を産むという選択をしてもらうため、第一子から保育料を無償化し、その財源として子育て税を導入してはどうか

イ 若年層の所得が低下している中、経済面で安心して子育てができるよう、空き家に安く入居できるようにすべきと考えるがどうか

ウ 全世代で子育て世帯を支援するため、国の人事院勧告から一步踏み込み、本市職員の扶養手当の配偶者分を廃止し、子供分を充実させる育児手当に衣がえしてはどうか

### (3) 男性の育児参加について

ア 現行の秋田市特定事業主行動計画で定める男性の育児休業取得率の目標値を、毎年10%から毎年100%に上方修正し、男性職員の育

児休業取得を義務化することにより、市役所内の意識改革と市内企業への浸透を図るべきではないか

## 8 行財政運営について

(1) 新・県都『あきた』改革プラン（第6次秋田市行政改革大綱）について

ア 同プランの進捗状況はどうか、また、進捗がおくれているものと、その理由は何か

(2) 秋田市公共施設等総合管理計画について

ア 個々の公共施設等の更新・廃止の決定に当たっては、情報公開による市民の理解と協力が不可欠であることから、市民参加により計画を策定すべきと考えるが、どのように進めるつもりなのか

イ 公共施設の集約化・複合化に当たっては、民間活力の導入を基本として検討すべきと考えるがどうか

ウ 老朽化した公園施設の整備に当たり、新年度に創設されるPark-PFI制度を活用し、収益施設を営む民間事業者の参入を促すべきと考えるが、市として取り組むつもりはあるのか

(3) ふるさと納税について

ア 返礼品競争が過熱するふるさと納税の課題をどう考えているのか

イ 国に対して、返礼品の上限額設定などの制度改革を働きかける考えはあるのか

1 市長の政治姿勢について

(1) 新・県都『あきた』成長プランについて

ア 同プランに掲げている5つの成長戦略の進捗状況はどのようになっているのか、また、推進に向けた課題及び平成29年度の重点的な取り組みは何か

イ 本市に住み続けるために必要とされた「雇用の場の確保」、「非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加」及び「若者にとって魅力のあるまちづくり」をどのように推進していくのか

ウ 女性や高齢者が活躍できる就業機会の拡大をどのように進めていくのか、また、障がい者の雇用促進についてはどうか

(2) 人口減少対策について

ア 平成29年度における人口減少対策に係る重点施策は何か、また、当初予算に盛り込んだ施策の推進に係る予算額はふえているのか

(3) 交流人口の拡大について

ア 交流人口拡大に向け、まずは観光やビジネスなどのさまざまなニーズの把握に努めることが必要と考えるがどうか、また、そのニーズにこたえるためにどのように取り組んでいくのか、さらに、推進体制をどのように構築していくのか

イ 交流人口拡大に向けた地域ブランド化や特区制度の活用が重要と考えるがどうか

ウ 交流人口拡大に資するスタジアムの整備が必要と考えるがどうか

(4) 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想について

ア 本市のまちづくりを長期的かつ多面的な視点から検討する要素の一つとして、イオンタウン株式会社が掲げる同構想を題材に、同社との対話を始めるべきではないか

(5) 地方公会計制度について

ア 平成29年度からの実施に向けた開始貸借対照表作成及び固定資産台帳整備並びに財務書類作成マニュアル整備及び職員研修の状況は

どうか

イ 一般会計等財務書類などの各財務書類及び固定資産台帳をどのように公表・活用するのか

ウ より適切に公共施設マネジメントを推進できるよう、秋田市公共施設等総合管理計画と関係させるべきと考えるがどうか

## 2 地域産業の振興について

### (1) 農業の振興について

ア 農業の大転換期において、消費者と対話をする農業の確立が必要であるが、市としてどのように認識し、取り組んでいくのか

イ 農業者の生活基盤の安定確保及び競争に強い農業の確立に向け、農業経営の法人化の促進が重要であるが、どのように取り組んでいくのか

### (2) 農業者の育成について

ア 次代を担う農業者の確実な育成に向けて、園芸振興センターにおける研修終了後のフォロー及び支援が重要と考えるが、どのように行っていくのか

イ 農業への関心を実際の就農につなげるため、新・農業人フェアへの積極的なブースの出展や、移住・定住に関する施策との連携が必要と考えるがどうか

### (3) バイオマス発電事業について

ア 平成29年度に本県初となる食品廃棄物を原料としたバイオマス発電所が運転開始予定となっているが、食品リサイクルや市で処理するごみの減量に資することから、市として支援していくべきと考えるがどうか

## 3 防災・減災対策について

(1) 道路の陥没事故防止や防災・減災の観点から、路面下空洞調査及びその対策が重要と考えるが、どのように認識し、今後どのように対応していくのか

(2) 小学生を対象として防災キャンプや学校防災に関する専門家等を活用した防災教育を行い、内発的な防災意識を醸成することが重要と考えるがどうか

(3) 豪雨、暴風及び竜巻等の自然災害の脅威に対し、どのように備えているのか、また、災害応急対策についてはどうか

#### 4 地域コミュニティについて

(1) 高齢化が進行する中において、地域の清掃活動や除雪等を行うことが困難となっている地域が出てきているが、地域コミュニティを維持していくため、どのような対策を講じていくのか

#### 5 障がい者施策について

(1) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律にうたわれている、「相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」に向け、市としてどのように取り組んでいるのか、また、課題についてはどうか

(2) 聴覚障がい者のコミュニケーション支援として、要約筆記者の認知度の向上や活用機会の拡大等を図るべきと考えるがどうか

(3) 他都市におけるヘルプカードの導入状況をどのように認識しているのか、また、本市においても早期導入に向けて検討すべきと考えるがどうか

#### 6 感染症対策について

(1) B型肝炎ワクチン接種費用の助成について、より体の免疫機能の発達と感染リスクの低減に資する観点から、2歳児まで対象の拡大を検討すべきと考えるがどうか

(2) 高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種率を高めるために、65歳以上の方については、定期接種の対象であるかどうかにかかわらず接種費用の助成を行うべきと考えるがどうか

## 7 食品ロス対策について

- (1) 本市における食品ロスの発生状況はどのようになっているのか、また、発生状況をどのように把握しているのか
- (2) 食品ロスはさまざまな場面で発生しているが、本市における食品ロス削減に向けてどのように取り組んでいるのか、また、課題についてはどうか
- (3) 食品ロス対策として、ドギーバッグの活用が有効とされており、フードバンク活動もその一助となり得るが、市としてどのように取り組んでいるのか



## 1 市長の政治姿勢について

- (1) 3期目に臨むに当たり、特に重要視している市長公約は何か
- (2) 若者定住のため、雇用対策にどのように取り組んでいくのか
- (3) 本市の豊かな自然や伝統文化などを生かした観光施策について、今後、どのように取り組んでいくのか
- (4) 少子高齢化対策について、今後、具体的にどのように取り組んでいくのか

## 2 平成29年度当初予算編成等について

- (1) 平成28年度当初予算と比較して、編成方針についてどのような違いがあるのか
- (2) 今後の人口減少に伴う市税や地方交付税などの減少は、本市財政にどのような影響を及ぼすのか
- (3) 予算編成方針には、選択と集中による予算配分を実施する必要があるとしているが、具体的な実施状況はどうか
- (4) 成長戦略事業を積極的に推進することで、他の事業への影響はないのか

## 3 秋田市公共施設等総合管理計画について

- (1) 公共施設の過去5年間の投資的経費は幾らか、また、今後10年間の投資的経費はどのくらいになると見込んでいるのか
- (2) 人口減少に伴い、財源確保が今後ますます厳しくなっていく中で、現在保有している約530の公共建築物はこのまま維持できるのか
- (3) 生活面で特に影響のある道路、橋梁、上水道、下水道等の社会基盤施設は現状どおり維持できるのか

## 4 空き家対策について

- (1) 倒壊のおそれが高いなど、特に注意すべき家屋については、直ちに

対処すべきと考えるがどうか

(2) 空き家の解消に向け課題をどのように整理し、解決を図っていくのか

(3) 中心市街地活性化の観点からも、中央地域の空き家対策を重点的に  
行っていく考えはないか

## 5 移住支援について

(1) 本市における平成27年度及び平成28年度の移住者は何人であったのか、また、その数をどう見ているのか

(2) 月刊誌「田舎暮らしの本」の企画である「2017年版・住みたい田舎ベストランキング」に本市はエントリーしたのか

(3) 同ランキングで、由利本荘市が総合部門で東北第1位となったことを、どのように評価しているのか

## 6 港湾貿易振興等について

### (1) 貿易振興について

ア 秋田港シーアンドレール構想の実現に向けた取り組み状況は、現在どうなっているのか

イ 新・県都『あきた』成長プランでは、平成32年度の目標として秋田港外貿コンテナ取扱量を60,000T E U（20フィートコンテナ）と設定しているが、どのような方策を講じればそれが達成できると考えているのか

ウ ソウル市やロシア極東地域での商談会の成果と今後の展開はどうか、また、南寧市で開設した秋田ショップをどう評価しているのか

エ 台北市やA S E A N諸国での事業展開における市のかかわりはどのようになっているのか

オ トランプ氏のアメリカ大統領の就任により、本市の貿易にどのような影響が生じると考えているのか

### (2) 秋田港を取り巻く環境について

ア 秋田港周辺で火災が発生した場合、爆発等が誘発されるおそれがある

ある危険な箇所はどのくらいあるのか

イ 本市として、災害やテロ対策に対し、どのように取り組んでいるのか

ウ 災害やテロの発生を想定した、国や県と連携した具体的対策は考えられているのか

(3) 秋田市ポートタワーセリオンを活用したにぎわい創出について

ア 同施設内に「土崎湊屋」がオープンしてから約2週間が経過したが、利用者等の反応はどうか

イ 今後、どのようなにぎわいが期待できるのか、また、さらなる事業展開についてどのように考えているのか

7 仁井田浄水場更新事業について

(1) 同浄水場の更新は、仕様書を作成し、実施設計を行った上で、図面をもとにして入札執行する発注方式で行うべきではないか

(2) 浄水方式について、維持管理を地元業者が主体となって請け負うことができる、現状の急速ろ過方式で行うべきではないか

8 組織機構について

(1) 観光文化スポーツ部と産業振興部の設置に伴うメリット及びデメリットは何か

(2) 観光文化スポーツ部と産業振興部が連携強化を図り、新たなにぎわい創出の掘り起こしを考えてみてはどうか

9 秋田国際ダリア園等について

(1) 同園をどう評価しているのか

(2) 同園からの要望等に対する協力及び支援はどうなっているのか

(3) 同園周辺にある民間資本活用施設や里の家など営業実態が確認できないような施設に対してはどのように指導してきたのか

(4) 同園一帯のにぎわいづくりについて、どのように考えているのか

## 10 消防団員について

- (1) 消防団員確保のため、新たな方策が必要と思うがどうか
- (2) 消防本部として、機能別消防団員に関してさまざまな取り組みを行っているが、今後、活動の活性化に向けた具体的な考えはあるのか

## 1 市長の政治姿勢について

(1) 穂積市政の元気な秋田市づくりに向けた2期8年の総括と自己評価について

(2) 市長公約について

ア 2期目の公約の考え方とこれまでの取り組みの成果及び知事との共同公約も含め3期目に向けて考えている内容について

(3) 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

ア 2040年時の人口を約26万人、合計特殊出生率を2.07とする高い目標の実現に向けて、専門部署を設置するなど、組織的対応を考えるべきと思うがどうか

イ 地方創生推進交付金を活用した秋田市農業ブランド確立総合戦略の策定については、コンサルタントに委託し、市民や職員の参画により進めているが、市の独自色が重要となる計画の策定に当たっては、できるだけ地域資源を知り得る職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、より市民の協力を得ながらつくり上げるべきと思うがどうか

ウ 若者の雇用確保に向け、成長分野の企業誘致とともに、航空機産業や風力発電メンテナンス等に対応できるような地元企業の育成にはどう対応しているのか

エ 県内の有効求人倍率が1.27倍と高水準になっていることに加え、各分野で著しい担い手不足が生じている状況を雇用安定や企業支援にどう結びつけていくのか

オ 本市に新たな人の流れをつくり、にぎわいを創出すべく新設された観光文化スポーツ部において、広域観光を含めた戦略をどう進めていくのか

(4) 特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（IR推進法）等について

ア 同法成立を受け、各地で誘致に向けた動きが報じられているが、

同法に対する市長の認識とギャンブル依存症対策についての考え方はどうか

イ 茨島地区に建設予定の競輪場外車券売場について、業者との協議はなされているのか

## 2 都市内地域分権について

(1) 平成28年度から10課の25業務が各市民サービスセンターに移譲されているが、都市内地域分権を本格的に推進する体制は整ったのか

(2) 業務の移譲に伴い、各市民サービスセンターの職員が平均1人の増員となっているが、職員数と業務量のバランスはとれているのか

(3) 各事業執行に必要な予算は、前年度水準を確保しているとのことであるが、各市民サービスセンターにどのように配当しているのか、また、配当された予算で各地域の住民要望にこたえられているのか

(4) 社会教育部門である公民館活動や生涯学習活動は、各地域にどう浸透させ、活動につなげているのか

(5) 本庁と各市民サービスセンターとの業務上の役割分担はどうなっているのか、また、その役割分担について市民への周知は図られているのか

(6) (仮称)秋田市新屋ガラス工房と(仮称)土崎みなと歴史伝承館については、両地域の市民サービスセンターの所管とするようであるが、観光文化スポーツ部の所管としなかった理由は何か

(7) 今後の北部公民館の取り扱いについて、どう考えているのか

## 3 財政について

(1) 平成29年度当初予算編成に当たり、平成28年度の決算見込みをどう反映したのか

(2) 特に意を用いた分野を含め、平成29年度当初予算の特徴は何か

(3) 地方交付税については、国の配分が全体で前年度比2.2%減とされたことを受けて、本市への交付見込額も約9億円減の203億円余りのことであるが、財政計画を立てる上での今後の見通しはどうか、ま

た、地方創生推進交付金の活用見通しはどうか

(4) 財政調整基金は、標準財政規模の10%が望ましいとされているが、どう認識しているのか、また、同基金の今後の積み立ての見通しはどうか、さらに、ほかの基金の積み立て状況はどうなっているのか

(5) 地方公会計移行に向けた進捗状況と見通しについて

#### 4 まちづくりについて

(1) コンパクトシティ構想には、中心市街地と6つの地域拠点整備も含まれているが、施設整備や財政投資が突出している中央地域と他の地域との整合をどう図るのか

(2) 中央通りから広小路側に回る一方通行の見直しと、接続する狭隘な県・市連携文化施設周辺道路も含め、交通体系についてどう考えているのか、また、秋田中央警察署裏の道路からお堀を越えてダイレクトに駐車場と結ぶ橋を設置することは考えられないか

(3) 県・市連携文化施設について

ア 施工業者の選定に当たっては、総合評価落札方式によるとされているが、本市の新庁舎建設に際し、3回目でようやく落札したという教訓をどう生かそうとしているのか

イ 県・市連携文化施設及び旧県立美術館利活用等に係る想定実質負担額は約52億円とのことであるが、今後、新たな負担が生じる可能性はないのか

ウ 隣接する駐車場の整備については、コストは高くつくが長期的視点からは歓迎できることから、将来的リスクを考えると土地の取得が望ましいが、取得費の算定と負担についてどう考えているのか、また、バス等の駐車場として旧産業会館跡地の活用策に対する認識はどうか

(4) 旧県立美術館については、(仮称)芸術文化交流施設として活用するとのことであるが、ジョイナスの一部機能移転も視野に活用策を見直すとともに、県にも事業参画を促し、整備費の負担を求めるべきと思うがどうか

5 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想について

- (1) インバウンドを含め、県外からの人の流れについての考え方はどうか
- (2) 建設予定地の農地所有者と意見交換をする考えはないか
- (3) 同構想におけるスタジアム建設の可能性について
- (4) 同構想を進めることにより、計画されている泉・外旭川新駅（仮称）の整備に向けて、より市民理解を得ることができると思うがどうか

6 上下水道事業について

(1) 水道事業について

ア 水道料金を値上げする自治体が多いとの報道もある中で、本市は現行料金を維持する方針のようであるが、人口減少を踏まえた上で、今後の水道料金についてどのように考えているのか

イ 安全な飲料水の供給及び漏水対策上の課題として、鉛製給水管及び法定耐用年数を超える老朽配水管の更新について、どのように進めていくのか

ウ 平成29年度に予定されている仁井田浄水場更新の基本計画策定において、想定される施設能力、更新手法及び今後のスケジュールなどについて、どのように考えているのか

(2) 下水道事業について

ア 農業集落排水と合併処理浄化槽も含めれば、下水道の普及率は97.8%とされているが、いまだに約6,800人が利用できない環境に置かれていることを踏まえると、早期の未普及地域解消が望まれるが、今後の下水道整備の進め方についてはどうか

イ 近年、多発傾向にある台風や局地的豪雨、洪水等による浸水対策をどのように進めていくのか

ウ 平成27年度決算において約11億円の当年度純利益を計上しているが、今後は人口減少等により、経営環境は厳しさを増すと考えられ



ることから、効率的な経営にどのように取り組んでいくのか

エ 県流域下水道との接続に要する費用の見込みとそれに伴う経済的効果をどう見込んでいるのか、また、八橋終末処理場の活用をどう考えているのか

## 7 農業等について

(1) 米の生産については、平成30年以降も国が全国ベースでの需給見通しを示すことになっているが、経営所得安定対策等により、需給調整が機能するよう国に強く働きかけるべきではないか

(2) 米の生産数量の目安は、全国の需給見通しに販売シェアを乗じて県が決めるものの、市町村配分は行わないとされているが、現場の混乱が予想されることから、県の目安が機能するよう、市としてどう対応するのか

(3) 秋田市都市農村交流マスタープランについて

ア 同プランにコンパクトシティ構想と並行して福祉施設等を建設できる内容を盛り込むべきと思うが、市長の見解はどうか

イ 旧上新城中学校校舎の活用も検討されているが、いじめや不登校児童問題を農業体験活動と結びつけ、児童の元気を取り戻すためのフリースクールとしての活用について同プランに組み入れてはどうか

(4) 有害鳥獣としてのクマ対策について、猟友会との連絡調整、捕獲おりの備え、看板の設置等を含めた安全対策、県との情報交換等についてどのように行っていくのか

(5) 第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向けた本市の対応について

## 8 教育行政について

(1) 新学習指導要領においては、本県が先導的に取り組んできた探究型授業、小学校における外国語教育、道徳の教科化などが挙げられ、実施に向けては子供たちが主体性を発揮できる授業内容の研究と教師のスキルアップが求められているが、本市では準備をどのように進めて

いるのか

(2) 新たな教育委員会制度への対応の状況はどのようになっているのか

(3) 秋田公立美術大学に関する市長の認識について

ア 平成28年度の卒業生の進路状況について

イ 学生の地元出身比率向上は公立大学としては望ましいと考えるが、どの程度を見越しているのか

ウ 開学以来、運営費交付金等の額が増大しているが、その要因と今後の見通しはどうか

エ 産学連携やまちづくりとのかかわりについて、どう対応されているのか

オ 現在の県・市の良好な関係を踏まえ、県立大学との連携または移管についての考えはどうか

1 2018年を起点とする国の農業・林業振興政策の変更に伴う本市のビジョンについて

(1) 農業振興について

- ア 2018年を見越した農業ビジョンをどのように描いているのか
- イ 新規就農者育成のために、多様性に呼応した農業の姿と稲作にかわる農業生産環境をどのように整えていくのか
- ウ 温室栽培の熱源確保に、木質エネルギーを活用したセントラルヒーティングシステムを普及させていく考えはないか
- エ グローバルGAPを想定した農業生産環境をどのように展望しているのか

(2) 林業振興について

- ア 森林資源の保全と活用はどのように行われているのか
- イ 林道整備を急ぐべきと考えるがどうか
- ウ 農業生産と連動した木質エネルギーの具体的な活用方策を示すべきと考えるがどうか
- エ 森林総合監理士との連携はどのように図られているのか
- オ 森林資源を生かした里山づくりによって、本市の魅力度を上げるべきと考えるがどうか
- カ 国の政策変化に呼応してどのような準備がされているのか

2 秋田港について

(1) 秋田港の利活用と港湾整備について

- ア 秋田港の将来的な利活用計画及びビジョンについてはどう考えているのか
- イ 秋田港シーアンドレール構想の実現に向けてどのような準備をしているのか
- ウ 水深の日常的な把握と水深を確保する措置をどのように行っているのか

エ 大型クルーズ船をポートタワー・セリオンわきに接岸させることは可能なのか

オ 港湾アクセス道路の整備について、現状をどのように認識しているのか

### 3 ごみ減量化について

(1) 家庭ごみ処理手数料は、多額の手数料収入となっており、基金化されている部分もあるため、値下げしてもごみ減量化の動機を妨げることはないと考えがどうか

(2) 事業所排出ごみの量の推移と減量化に向けた現状と認識についてはどうか

(3) 社会構造上発生しているごみの現状と、ごみ減量化に向けた発信はどうなっているのか

### 4 フッ化物洗口及び塗布事業について

(1) 市立小学校におけるフッ化物洗口事業について

ア 実施効果の評価をどのように行うのか

イ 実施効果にあまり変化が見られない場合の対応はどのようにするのか

ウ 高学年の児童は、みずから判断する能力が備わっていると思われることから、児童の成長に伴い実施の判断を児童本人にさせるべきと考えるがどうか

(2) 幼児へのフッ化物塗布事業について

ア 幼児へのフッ化物塗布は、唾液とともに飲み込む可能性も排除できないため、この事業を見直す考えはないか

### 5 子どもオンブズパーソン制度の導入について

(1) 秋田市子ども条例の精神をより具現化する必要があるが、「子どもオンブズパーソン制度」導入への認識と制度創設に向けた将来展望についてどのように考えているのか

6 市内企業及び事業者の育成について

- (1) 市が発注する業務について、公正を保てる範囲で可能な限り市内企業、事業者が受注できるよう対応されているのか